

## 学校経営のポイント

### “土・日の生活目標”をもたせる取組み

若井 彌一

去る4月17日、文部科学省の調査結果として、学校週5日制の土曜日・日曜日について、小学生・中学生・高校生のほぼ3人に1人の割合で「することがなくて、つまらない」と思うことが「よくある」または「ときどきある」と答えていることが判明した、との公表がなされた（翌18日の新聞各紙による）。

#### 「土・日退屈、つまらない」は1/3

小学校3年・5年・6年，中学校2年・3年，高校2年の計約7万5,000人を対象として昨年秋に実施した調査の結果である。

この調査結果を見て、「こんなにも、そう思う子どもがいるのか」と感ずるか、「たったこれだけの子どもしか、そう思わないのか」、あるいは「まあ、この程度の結果は十分予想されるどころだ」と感ずるかは、教育関係以外の多くの国民の間では感想が分かると予想される。

他方、教育関係者の間では、この結果を見て、の感想をもたれた人が多いかもしれない。しかし、この結果は、別の見方をすれば、3人に2人は「することがなくて、つまらない」と思うことが「あまり、ない」か「ない」ということであり（若干の不明を含む）、多くの児童・生徒がそれなりに「することがある」土・日の生活を送っているとみる（解釈すること）もできる。

また、調査結果によれば、土・日曜日に「学校や家ではできない体験をもっとしてみたい」と思うことが「よくある」または「ときどきある」児童・生徒が、小学校3年では62%（調査対象学年では最高）あり、中学校2年に向かって低下していくもの（同

学年最低42%）、それから高校2年に向けて微増していくという傾向を確認できる。

#### 「小人閑居して…」にならない取組みを

訴えたいのは、この調査結果を詳細に及んであれこれ解釈することの必要性についてではない。

児童・生徒の“何かしてみたい”という漠然とした意欲ではあっても、それをより明確な目標意欲に高めることができるように、各学校で指導上の取組みに充実を期すことの必要性についてである。

「何をすればよいのか、わからない」児童・生徒（「そう思う」ことが「よくある」、または「ときどきある」の合計）がほぼ5人に1人の割合で存在することを考えると、この取組みの充実は、軽視すべきではなからう。

少々飛躍した引用になるが、中国宋代の四書のひとつ「大学」にある訓言として「小人閑居して不善を為す」がよく知られている。器量の小さい人が暇でいると、とかくよくないことをするというような意味である。この例に傾かないように、豊かな可能性を秘めている児童・生徒にどのような体験（身体的および精神的、自然的および社会的）を積む可能性と必要性があるかを理解させ、それに基づいた実践（行動）ができるように、土・日の生活目標をもたせるための各学校の取組みが期待される。

今回の調査結果を悲観の材料とするのではなく、ぜひ各学校の取組みに活用したい。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

…本紙は、購読料不要です。配信の中止・FAX番号変更等の場合は、抹消・登録に必要な宛先、新・旧FAX番号、等を必ずご明記くださるようお願いいたします。

●最新刊・好評発売中！●

最新刊 好評発売中！

教育開発研究所刊

★管理職選考への論点整理・演習に！ 座談会で最新課題（少人数編成、主幹制等）を詳説！

## 『教職研修’03 情報版』〔監修〕菱村幸彦 定価 2625 円

■夏季教育管理職研修会（7月26・27・28日）！申込み受付中（詳細は『教職研修』5月号をご参照ください）